

## 年度業績一覧

### 学会発表

- ・「福祉教育の視点から捉えるインクルーシブ保育の社会的意義—ある医療的ケア児の保育実践をもとに—」  
藤田 久美, 高橋 幾  
日本福祉教育・ボランティア学習学会第31回えひめ大会, 2025年11月30日
- ・「医療的ケア児と周囲の児童との関わりでの生成について—担任の語りに基づく質的検討—」  
高橋 幾, 藤田 久美  
日本福祉教育・ボランティア学習学会第31回えひめ大会, 2025年11月30日
- ・「知的障害者の内発的動機づけを高める軽運動ゲームの開発と運動習慣形成への効果」  
山崎 智仁  
日本アダプテッド体育・スポーツ学会第30回大会, 広島修道大学, 2025年12月7日
- ・「発達が気になる子どもの保護者支援と園内外連携—主任保育士の語りをもとにした一考察—」  
藤田 久美, 横山 順一, 小田 真実, 山崎 智仁, 高橋 幾  
日本乳幼児教育学会第35回大会, 西南女学院大学, 2025年12月13日
- ・「地域子育て支援拠点の支援者の専門性—アンケートの自由記述の分析から—」  
横山 順一, 藤田 久美, 永瀬 開, 小田 真実  
日本乳幼児教育学会第35回大会, 西南女学院大学, 2025年12月13日
- ・「地域子育て支援拠点における『気になる子ども』の保護者支援と拠点内外連携」  
小田 真実, 永瀬 開, 藤田 久美, 横山 順一  
日本乳幼児教育学会第35回大会, 西南女学院大学, 2025年12月13日

### 実践報告

・「大学における子ども家庭のWell-beingを目指した試み—『子ども家庭しあわせプロジェクト』の実践をもとに—」  
藤田 久美, 横山 順一, 山崎 智仁, 高橋 幾, 小田 真実  
山口県立大学学術情報社会福祉学部紀要, 32号, 2026年3月

### その他

・「2025年度 山口県立大学社会福祉学部附属 子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 事業活動報告」  
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 2026年3月

## 保育士資格取得支援

2025年度の保育士資格取得支援に関する説明会は、計8回実施しました。7月7日、7月17日、7月12日、1月8日、1月13日、1月23日は、保育士試験の受験を希望する学生に向けて、オンライン受験申請の方法に関する説明会を行いました。11月19日には次年度以降に初めて保育士試験を受験する予定の1年生を主な対象として、横山研究主任から試験の概要や受験科目、受験に際しての様々な説明を行いました。また、12月17日は在学中に保育士試験に合格した先輩2名から、試験に対する体験談を聞く会を設け、試験勉強の進め方や実技試験の様子などの体験談を聞く機会となりました。

また、参考書の購入相談や実技試験対策としてのピアノの提供等、保育士試験に関する全般的な相談に随時対応しました。

## 地域の方の感想

「初めて知るわらべうたもあり、親子で触れ合いながら楽しむことができて良かったです。お菓子とお茶の時間で他のお母さんとお話できてリフレッシュできました。」

（「子ども家庭しあわせ学習会」参加者）

「家で子どもと2人でいると良くないことばかり考えてしまうけど、皆同じような悩みを抱えながら子育てしてるんだなと思いました。悩みを話すことで心が軽くなりました。」

（「ママかんフリーカフェ」参加者）

## 学生子ども家庭ソーシャルワーカーの感想

「お母様方の『リフレッシュできた』『家でわらべ歌をやってみる』等の感想がとてもうれしく、は♪あ♪いのやりがいを感じました。次回も、子ども達の成長した姿を見るのが楽しみです。」

（「は♪あ♪い」参加・4年生）

「初めて本格的に障害児者のみなさんと関わってみて素直に楽しかったし、いろいろな発見があった。特にうれしかったのは、一緒にテニスをした時に、点が入るとハイタッチしてくれたことで、楽しさを共有できた瞬間だった。」

（「BRIDGE」参加・3年生）

## 編集後記

今年度も、人材育成事業、調査研究事業にご協力いただいた関係機関の皆さま、そして、地域連携事業にご参加いただいた皆さまに、この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

来年度は各種事業を発展させつつ、山口県の子どもとその家族の幸福の実現のために、一層邁進してまいります。これからも子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所をどうぞよろしくお願いいたします。

発行  
山口県立大学社会福祉学部附属  
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所  
〒753-8502  
山口県山口市桜島6丁目2-1  
山口県立大学1号館A406



研究所のHP・ブログは  
こちらからどうぞ

令和8年3月31日



2025年度

山口県立大学 社会福祉学部附属

# 子ども家庭ソーシャルワーク 教育研究所 事業活動報告

～すべての子どもと家族の幸福の実現を目指して～



公立大学法人  
山口県立大学  
Yamaguchi Prefectural University

## はじめに

令和5年4月に山口県立大学社会福祉学部附属「子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所（以下、研究所）」が開所し、3年目を迎えました。研究所では、山口県の子どもと家族の幸福の実現のための教育研究を行うことを目的とし、調査研究、人材育成、地域連携の3つの事業をすすめています。本報告パンフレットでは、大学行事への参加、3つの事業の活動報告、山口県乳幼児の育ちと学び支援センターとの連携、学生子ども家庭ソーシャルワーカーの活躍の様子等、令和7年度の活動報告を行います。

## 大学のイベント等への協力

### グローバル学生交流事業（国際交流）

7月11日に、韓国の慶南大学校からの留学生を迎え、「グローバル学生交流事業」を開催しました。社会福祉学部の学生が手話、折り紙、わらべうたのプログラムを企画し、当日の運営を担当しました。学部での学びを生かしたプログラムを通して、異文化交流を行うとともに、その文化への学びを深めることができました。



### 地域交流イベント「県大見本市」

8月7日に山口県立大学にて開催された「県大見本市」に参加しました。研究所の地域連携事業の紹介や、調査研究事業を通して得られた成果をパネル・ポスターにて展示しました。当日は、行政・企業の方や高校生にご来場いただき、藤田所長や研究所スタッフから研究所の取り組みについて紹介しました。



### オープンキャンパス

7月19日、8月3日に開催されたオープンキャンパスにて、研究所のブースを設け、藤田所長、小田研究員、学生子ども家庭ソーシャルワーカーが研究所の活動について紹介を行いました。

## 山口県乳幼児の育ちと 学び支援センターとの連携

研究所は、山口県の子どもと家族の幸福の実現のために、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター（通称：乳幼セ）」と連携を図りながら、子ども家庭福祉問題に対応できるソーシャルワークの知識と技術を兼ね備えた子ども家庭支援に携わる専門家の育成のための教育研究を行っています。今年度も昨年度に引き続き藤田所長が乳幼セ専門分野に係る幼児教育アドバイザーとして協力しました。また、令和7年9月に開催された乳幼セ主催の「令和7年度特別な配慮を必要とする子どもの保育研修会C」にて藤田所長と横山研究主任が講師を担いました。令和7年10月には、乳幼セ主催・研究所共催「保育者フェスタ2025」を本学を会場に開催し、藤田所長が講座「障害児保育実践のコツ」を担当しました。



## 研究所事業への1年間の参加者数

### 山口県の子ども家庭支援に携わる人材育成

- ・YPU保育者キャリアアップセミナー参加者数 ……19人
- ・YPU保育者ステップアップセミナー申込者数 ……28人
- ・YPU保育者ステップアップセミナー視聴回数 ……864回
- ・保育士資格取得を支援した学生 ……56人
- ・学生子ども家庭ソーシャルワーカー登録者数 ……93人

### 山口県の子ども家庭福祉問題の対応・課題解決に向けた地域連携

地域連携事業への参加人数		
プロジェクト名	学生	地域の方
は♪あ♪い	92	114
いまさら	131	8
APPLE	2	9
BRIDGE	40	49
LIEN	0	20
ママかんフリーカフェ	62	72
計	327	272

# 2025年度子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の活動

## PROJECT 1 山口県の子ども家庭福祉課題のための 調査研究

2025年度は山口県内の幼稚園、保育所、認定こども園を対象とした調査研究を行いました。近年、子ども家庭支援の観点から、保育現場には子どもだけでなくその保護者をも含めた包括的な支援が求められています。しかし、発達障害特性をもつ子どもの保護者に対する支援では、保育者は様々な困難を経験することが指摘されています。このことを踏まえて、保育者が発達障害特性をもつ子どもの保護者支援に対して感じる困難が、園内外の支援者同士との連携によって緩和されるのかについて検討しました。

まず、調査Iとして、発達が気になる子どもの保護者支援における園内外連携のプロセスを明らかにするため、インタビュー調査を実施しました。続いて、調査IIでは、発達障害特性をもつ子どもの保護者に対して支援を行うことの困難さを軽減する要因について検討するため、アンケート調査を実施しました。これらの研究を通して、保護者との信頼関係を基盤としながら、園内連携・園外連携を実践することで保護者理解や保護者支援が促される可能性が明らかになりました。調査I、IIで得られたデータは、日本乳幼児教育学会第35回大会で発表された他、論文・書籍等で公表を行う予定です。

これらの結果を来年度のYPU保育者キャリアアップセミナーなどで現場の保育者に還元しつつ、これからも山口県が抱える子ども家庭福祉課題解決のために調査研究事業を進めていきたいと思っております。



## PROJECT 2 山口県における子ども家庭支援に携わる 人材育成

### YPU 保育者ステップアップセミナー

YPU保育者ステップアップセミナーは、子ども家庭支援に携わる保育者のためのリカレント教育を行うことを主な目的として実施しています。

今年度は、3回に分けて計8タイトルのプログラムを配信しました。

#### 第1回配信

- ①「保育者のための子ども権利擁護」横山 順一
- ②「保育者のための特別支援教育」藤田 久美

#### 第2回配信

- ①「保育者のための障害福祉」勝井 陽子
- ②「保育者のための発達心理学」小田 真実

#### 第3回配信

- ①「保育者のための障害児心理学」永瀬 開
- ②「保育者のためのソーシャルワーク」長谷川 真司
- ③「保育者のためのデジタル・リテラシー」山崎 智仁
- ④「保育者のためのインクルーシブ教育」高橋 幾

1年間で28名の視聴登録の申し込みをいただきました。4年目を迎える来年度は、新たな講師陣を加えて、講義を行う予定です。

## YPU保育者キャリアアップセミナー

8月19日に、YPU保育者のためのキャリアアップセミナー「保育実践で出会う『気になる』子どもの理解と支援」を開催しました。保育者19名の参加がありました。

本講座では、専門家としてのスキルアップを図るために、家庭福祉課題を抱えた子どもと発達の気になる子どもの理解に焦点を当てながら、子どもや家族の支援に必要な知識と技術について学びました。

#### 【講義1】

「地域子育て支援拠点の支援者がとらえる『気になる』子どもと親支援—研究成果をもとに—」小田 真実

#### 【講義2】

「保育実践で出会う『気になる』子どもの理解と支援—子ども家庭福祉課題を中心に—」横山 順一

#### 【講義3】

「保育実践で出会う『気になる』子どもの理解と支援—発達の気になる子どもと家庭への支援—」藤田 久美

#### 【学びの総括】

グループワーク（山崎 智仁・高橋 幾・乳幼セスタッフ）  
まとめ・質疑応答（講師全員）

講義後のグループワークでは、参加者同士で情報交換をしながら、学びのふりかえりや保育実践の共有が行われました。講義後の感想では「見通しをもって保育を考えるあまり、今の子どもの姿や幸福をみおとしがちだったことに気づきました」という声などが寄せられました。



## PROJECT 3 山口県の子ども家庭福祉問題への対応・解決に向けた 地域連携

「はらあらい」はわらべうたを導入した、親子のコミュニケーション促進をサポートするインクルーシブな子育て支援プログラムです。今年度は4月17日、5月13日、6月24日、7月17日、10月22日、11月11日、12月10日、1月15日の計8回開催しました。「はらあらい」は、学生が主体となって準備・運営・企画しています。

また、「はらあらい」の企画段階からご指導いただいているノートルダム清心女子大学教授 湯澤 美紀先生をお招きして、11月17日および2月17日に「子どもも大人も笑顔になる わらべうたの魅力をもっと知ろう」をテーマとした学習会を開催しました。ダイナミックに体を動かしたり、お手玉で遊んだり、テーマの通り、地域の親子、本学学生ともに笑顔が溢れ、わらべうたの魅力を再認識する時間となりました。



## APPLE

「APPLE」は、自閉スペクトラム症の子どもとその親を対象とした早期支援プログラムです。Aくんが2歳2カ月のときから支援を開始しました。もうすぐ4歳になるAくんですが、毎回、様々な遊びにチャレンジして、可愛い姿をたくさん見せてくれています。令和7年度は3回実施しました。APPLEでは、子どもが興味関心のある遊びや活動をもとに、人とかかわる経験の中で社会性やコミュニケーションの発達を支えることを大切にしています。この実践過程で得られた情報を整理し、幼児期にある自閉スペクトラム症の子どもとその保護者への早期支援のあり方を検討するという研究活動を行っています。令和7年度は乳幼セ主催の「保育者フェスタ」の「障害児保育実践のコツ」で藤田所長が参加者に報告しました。学生子ども家庭ソーシャルワーカーは、研究員がAくと保護者を支援する場に同席したり、ビデオを見たりして学んでいます。



## BRIDGE

「BRIDGE」は、特別支援学校・特別支援学級に在籍する中学生・高校生・卒業生を対象に、山口県立大学社会福祉学部の学生と交流活動を行う余暇支援プログラムです。2025年度は、「大学生と一緒に遊ぶ」ことを中心に、軽運動ゲーム、テーブルゲーム、テレビゲーム、ICTを活用した音楽活動やプログラミング活動など、多様な余暇活動を通じた交流を実施しました。活動は年間4回実施し、7月にはゲームを通じた交流活動、10月にはタブレット端末を用いた音楽活動、11月にはプログラミングアプリを用いたゲーム制作、12月には参加者と大学生で来年度の活動計画を行いました。これらの活動を通して、参加者が安心して大学生と関わりながら、自分の「好き」や「得意」を生かし、主体的に余暇を楽しむ姿が見られました。



## LIEN

今年度の「LIEN(リアン)」は、医療的ケア児及び重症心身障害児とその家族の支援にかかわっていらっしゃる支援者同士の交流と学び合いの場として8月21日、12月22日、3月9日にオンラインで行いました。研究所と連携している「やまぐち医療的ケア家族ネットワーク」めでいっちゃんやまぐち」代表の坂田氏のお子さまAさんの小学校の学校生活の様子について、特別支援学級の担任の先生と坂田さんからお聞きしました。学校生活の様子を写真で見せていただき、Aさんが笑顔いっぱい学校生活を楽しんでいる姿を拝見し、参加者みんなで喜びを分かち合いました。参加された児童発達支援センターや相談支援事業所、特別支援学校に勤務する支援者からあたたかいお言葉をいただくとともに、参加者が日ごろ抱えている思いも共有しました。今後も、この活動を通して、医療的ケア児や重度の障害のある子どもの支援について語り合える時間を作っていきたいと思っております。



## ママかんフリーカフェ

ママかんフリーカフェは、発達の気になる子どもの家族を対象とした子育てサロンとして、本学の地域共生センター管轄の地域交流スペースYuccaにて長年開催されてきましたが、令和6年度から研究所の地域連携事業として開催しています。藤田所長と障害児教育研究室の学生が中心となり、運営を行い、10回の開催でのべ47名のご参加がありました。

本カフェでは、参加者同士が子育てにおける悩みや課題を共有し、情報交換を行う場を提供しました。参加者からは、「私のほっとできる場所の一つです」という嬉しいお言葉や、「先輩ママからの情報がとても役に立ちました」といった感想をいただくことができました。また、運営にかかわった学生は、家族の思いや願いを直接聞くことを通じて机上ではできない学びの機会をいただきました。

今後も、参加されるご家族にとってより有意義で心温まる時間となりますよう、運営していきたいと思っております。



## いまさら

「いまさら」は、不登校や登校しぶりのある子どもと家庭に対する支援事業です。学生が子ども一人ひとりに合った遊びを企画し、子ども自身が楽しめるサードプレイスであると共に、親御さんのお悩みに寄り添う場所を目指しています。

5月に学生を対象とした「いまさら」の活動方針についての説明会を開催し、6月から12月まで継続して学習会を行いました。学習会では、学生同士で活動内容の振り返りをおこなったり、事前に保護者から共有いただいた情報を踏まえて、子どもを迎え入れる準備について話し合ったりしました。子どもを迎える活動では、参加する子どもが体験したことのあるカードゲームやスライムづくりなどを準備して、安心できる活動を展開することで、不安の高い子どもたちを受け入れました。学習会で学んだことを活かし、学生が主体となって子どもと関わる活動を実施しています。

「いまさら」が不登校や登校しぶりのある子ども家庭にとってのサードプレイスとなるように、来年度も学びを深めていきます。今後の活動では、地域の学校や子どもの居場所等への学生の派遣も検討しています。

